

令和4年度前期 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事要旨

1. 日 時 2022年9月9日（金） 14:00～16:00
2. 会 場 米山キャンパス 開志未来創造研究センター
3. 出席者 三上委員長、田代副委員長、木田委員、黒田委員、中野委員
原田委員、箕打委員、高嶋（オブザーバー）、堀川（オブザーバー）
淡路学務課・社会連携推進課課長、宮本社会連携推進課員

欠席者 山田委員

4. 会次第

- 1) 開会の挨拶 三上委員長
- 2) 出席者挨拶（近況ご紹介）
三上委員長から委員名簿順に近況報告をおこなった
なお落田委員から箕打委員に変更になり自己紹介がおこなわれた
新委員 新潟市総務部デジタル行政推進課 課長 箕打（みうち）正人

3) 前回議事録の確認

三上委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた

4) 情報学部について

（1）令和4年度の学部運営について

事務局淡路より、資料5に基づき情報学部の2022度の入試状況について説明がされた

志願者126名、入学者80名（1.5倍）※定員充足

続いて資料6に基づき情報学部入学前課題について説明がされた

今年度は昨年までの課題（数学）にスタディスキルと英語を加えた。これにより学生の意識に差がでてきた

こちらからWeb上で課題をやったかの確認はできるが、本人からの確認が出来ていないことが問題点としてあげられる

（2）令和4年度の臨地実務実習について

事務局淡路より、資料7に基づき2022年度情報学部実習先一覧について説明がされた

実習先企業は臨地実務実習Ⅰ・Ⅱ併せて45社。内訳は臨地実務実習Ⅰ（150時間）が27社、臨地実務実習Ⅱ（450時間）は26社

実習先のほとんどが情報サービス業だが今年度は佐渡市・新潟市といった行政も加わり実習先は多岐にわたっている

5) 情報学部カリキュラム改訂について

事務局淡路より、資料 8・9 に基づきカリキュラム改訂ワーキンググループの今後の行動計画、取り組みについて説明がされた
またカリキュラム改訂のまとめとして教員の意見（以前のカリキュラムはまずは理論から入って実習に進む。現在は実習（実践）から入ってその後理論を学ぶ）を資料 10 として説明した。続いて情報学部教育課程等の概要変更案（廃止・新設）について資料 11 を基に説明がされた

6) その他（質疑応答等）

●木田委員：

・大手企業ではインターンシップにきた学生を採用する動きがあるが中小企業はどうか？企業側はインターンシップを採用に結びつけたいと考えているので、長い期間の実習ではなく、短い実習を多くの企業に行った方が学生も企業も選べるのではないか？

→学生は臨地実務実習先を就職先として選んでいない（オブザーバー堀川）

→社会経験として参加しているだけ（オブザーバー高嶋）

●オブザーバー高嶋：

・新潟で求められている DX の人材は？（どのような分野？）

→行政だと「Code for Japan」があるが、働きながら所属するのは難しいのか新潟には根ざしていないようだ（箕内委員）

→DX は推進されているが何をやったらいいかわからないのが現状（木田委員）

●黒田委員：

・セルフモチベーションが大事。最近の学生たちは自己肯定感が低い
世の中で求められているものは、①サイエンススキル ②エンジニアスキル
③ビジネススキルだが、学生がビジネススキルを身に着けるためには臨地実務実習で養うことになると思う

●中野委員：

・スタディスキルズは「なんで勉強するのか？」を自覚し能動的に学習する姿勢を学ぶものだが、大学では教員も職員も「この勉強をしろ！」と上から言うことはないがきちんと自分たちで学んでいる

→教員自身も学び続けることが大事（三上委員長）

※次回（第 2 回）協議会 2023 年 3 月 16 日（木）14:00～16:00 米山キャンパス 予定

以上